

ドローンの積極的活用を図れ!



平塚 茂 議員

ドローンの性能が著しく向上し、行政分野においても防災活用など利用が進んでいる。本市においても、早期に導入すべきではないか。

市長 空撮による情報収集や物資の配送など、ドローンの活用はさまざまな分野で無限の広がりを見せている。一方で、活用は始まったばかりで、活用方法も一層広がっていくと考えられることから、本市での導入については、今後幅広く研究していきたい。



◆認知症施策

超高齢社会が今後も進展する中、認知症対策の充実が重要である。本市の認知症予防策、早期発見、重症化防止策の現状と今後の取り組みを聞きたい。

健康福祉部長 本市では、認知症予防講座やたからばカフェ、認知症集中支援チームの設置など、他市に先駆けて認知症対策に取り組んでおり、その成果が上がっていると考えている。今後も認知症への理解の啓発や家族支援対策といった施策を進めていきたい。

健康福祉部長 本市では、認知症予防講座やたからばカフェ、認知症集中支援チームの設置など、他市に先駆けて認知症対策に取り組んでおり、その成果が上がっていると考えている。今後も認知症への理解の啓発や家族支援対策といった施策を進めていきたい。

本市の観光戦略について聞う!



杉田 光 議員

新駅設置を初め、本市観光誘客において大きなチャンスが迫っている。今春にはブレDCが実施されたが、これらを踏まえた観光戦略について聞きたい。

市長 プレDCの期間中、さまざまな会場に足を運んだが、どこも笑顔にあふれ、まちの賑わいを創出していった。この流れをさらに加速させ、足利の観光を次のステージに上げる絶好の機会と捉えて厚みのある観光へと進化させ、それを市民みんなで取り組む地域づくりにつなげていきたい。

※DC：デスティネーションキャンペーン

◆まちづくり

新駅設置や都市計画マスタープランの改定など、本市の発展につながるさまざまな契機があると推察するが、どのような考えでまちづくりに臨むのか。

市長 新駅整備事業を初め、本市全体の活力をけん引できるような事業を展開するとともに、多くの市民と理念を共有し、議論を深めていきたい。さまざまな魅力で輝くまちづくりを目指し、引き続き積極的に取り組んでいく。



子供・子育て環境の充実を!



中島 真弓 議員

こども医療費助成制度は、子育て世代にとつて非常に重要な支援策であり、関心も高い。「子育てしやすいまち足利」の目玉施策として、現物給付対象年齢を中学3年生まで拡大するべきと考えるが、今後の方針を聞きたい。

健康福祉部長 子育て世代からの要望は承知しているが、中学3年生まで引き上げた場合、新たに約1億7千万円の市の負担が見込まれる。結果的に子供たちとその負担をお願いすることとなるため、現時点での拡大は難しい状況にある。

◆スポーツ少年団に対する考え方

同少年団は「スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる」を理念に幅広い活動を行い、地域に貢献する団体として認知されている。県内25市町や西毛6市の中で本市だけが加入していないが、創設に対する考えを聞きたい。

教育次長 青少年のスポーツ環境を充実させ、子供たちがスポーツを行う上で選択肢の一つとなるよう、同少年団の創設について体育協会や、小学校体育連盟などの関係団体と協議していく。

